

報告書抄録

ふりがな	のぶかなかはらだこようあと							
書名	信包中原田古窯跡							
副書名	圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	飛騨市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第11集							
編著者名	河合英夫、三好清起							
編集機関	株式会社 玉川文化財研究所							
所在地	〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9 TEL 045-321-5565							
発行機関	飛騨市教育委員会							
所在地	〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号 TEL 0577-73-7496							
発行年月日	2017年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
信包中原田古窯跡	岐阜県飛騨市古川町信包中原田261・264番地	21217	G06F06433	36°15'12"	137°08'13"	197809 ～ 197811	20	圃場整備事業に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
信包中原田古窯跡	窯	古墳時代末 ～ 奈良時代初頭	須恵器窯1		須恵器		調査時は瓦陶兼業窯とされたが報告書作成の過程で須恵器窯と判明。	
	その他		灰原		須恵器、瓦			
要約	<p>信包中原田古窯跡は、宮川左岸の下野から信包に至る丹生坂をやや登った南西側の丘陵部先端付近に位置している。発掘調査は昭和53年9月～11月にかけて実施。当時は瓦陶兼業窯とされ、ここで焼かれた瓦類は7世紀中頃と推測された。また、その供給先として宮川右岸の古川町太江字左近（寿楽寺廃寺）に建てられた白鳳期寺院の屋瓦に用いたことが明らかになった。</p> <p>しかし、報告書作成の過程で須恵器窯であることが判明し、信包中原田1号窯と命名して報告することとなった。窯の採業年代は猿投窯編年でのⅣ期中～新段階（7世紀末葉～8世紀初頭）と推測される。須恵器類は壺・坏類などの供膳具、壺・甕・鉢類などの貯蔵具、水取ないし浄瓶などの供養具、それに円面硯なども出土しており、多岐多種にわたる。これら以外にも7世紀後半や9世紀代の資料も灰原から出土している。</p> <p>窯は半地下式の無階有段登窯と考えられ、規模は焚口から窯尻まで8.5m程度と推測される。窯の特徴として燃焼部から焼成部および窯尻にかけて両側壁に板石や角礫を使用している。これは石組側壁窯の系譜の窯と考えられ飛騨では初例となろう。</p> <p>また、灰原からは丸瓦や平瓦のほかには鴫尾や軒丸瓦なども出土している。鴫尾は寿楽寺廃寺でも出土していたが、窯場からの出土は飛騨では初例である。また、軒丸瓦は素弁八葉蓮華文軒丸瓦で、寿楽寺廃寺の創建期瓦を焼成した窯が近くにあることを示すものである。1号窯以外にも須恵器窯や瓦窯の存在を念頭におく必要がある。</p>							

飛騨市文化財調査報告書 第11集

信包中原田古窯跡

— 圃場整備事業に伴う発掘調査報告書 —

発行日 2017年3月30日

編著 株式会社 玉川文化財研究所

〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-8-9 TEL. 045 (321)5565

発行 飛騨市教育委員会

〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号 TEL. 0577 (73)7496

印刷 毎日印刷社

〒506-1161 岐阜県飛騨市神岡町船津1152-1 TEL. 0578 (82)0447